

問題行動に対応できる教員養成のためのビデオ動画の効果

応用行動分析学（ABA）の基礎知識の理解を促進するツールとしての活用

○三田地 真実¹⁾

岡村 章司²⁾

原口 一郎³⁾

遠藤 佑一⁴⁾

佐藤 智彦¹⁾

¹⁾星槎大学大学院

²⁾兵庫教育大学大学院

³⁾神奈川県立小田原養護学校

⁴⁾筑波大学附属久里浜特別支援学校

KEY WORDS: 応用行動分析学（ABA） 理解啓発ビデオ 教員養成

（目的） 学校における児童生徒が示す様々な問題行動に対する効果的な対処方法として応用行動分析学（Applied Behavior Analysis、以下 ABA）の原理に基づく、機能的アセスメントが効果的であるという報告がこれまでになされてきている（馬場・佐藤・松見、2013）。しかし、日本ではまだ ABA の認知度は教員の間でもそれほど高くなく（三田地ら、2015）、問題行動への対処は個々の教員の勘と長年の経験に委ねられているのが現状である。一方、米国においては、ABA の理論に基づき学校全体で問題行動に対処するためのシステムとしてスクールワイド PBS（ポジティブな行動支援）の構築が進められ、エビデンスベースの取り組みとして効果を上げている（Sailor et al., 2011）。

そこで、本研究では、現職教員を対象に ABA の基礎知識を効果的に伝達するためのツールとしての「ビデオ動画」（以下、ABA ビデオ）を作成し、この動画の視聴による、ABA の知識獲得への効果を検証した。これは、日本におけるスクールワイド PBS 構築の礎とするものである。

（方法）対象：公立学校（小学校 5 校、特別支援学校 5 校）、及び小学校教員対象の研修会、教職大学院の授業に参加した教員のうち、研究協力について了解の得られた 389 名。
方法：① 対象者には、ABA ビデオ（約 25 分）を視聴してもらい、その前後に、ABA の理解度チェックとして筆者らが作成した 10 の設問（5 つの選択肢から 1 つを回答する形式、満点 10 点）に回答してもらった。用いた ABA ビデオは、2014 年度の調査結果に基づいて制作した ABA 理解啓発ビデオ（Mitachi, et al., 2016）を改良したものである。

② 対象者には、自らの ABA の認知度を 7 段階評価してもらった（ABA を全く聞いたことがない（評価 1）～ABA を実践している（評価 7））。なお、ビデオ視聴後には、視聴前の理解度チェック問題 10 問（同一内容）に加えて、ABA の知識に関する 2 つの設問にも回答してもらった。

③ ABA ビデオ視聴の効果を検討するため、科研費で作成された生徒指導に関するビデオ（約 27 分）を視聴した者を対照群とした。上記のうち 2 つの協力校において、ABA ビデオ視聴群（59 名）と対照群（31 名）に対してビデオ視聴前後に ABA 理解度チェックを行った。

④ ①～②で調査した ABA ビデオ視聴 358 名の属性および理解度チェックの点数を統計学的に解析した。③の 2 群の比較から ABA ビデオ視聴の効果を統計学的に解析した。

（結果）①ABA ビデオ視聴前後における理解度チェック得点の比較： ABA ビデオ視聴 358 名の平均得点は、視聴前 7.04 点、視聴後 9.10 点であり、後者で有意に高かった（ $p < 0.001$ 、対応のある t 検定）。

②自己報告の ABA 認知度による理解度チェック得点の比較： 対象者の学校種のほとんどが小学校（183 名、51%）と特別支援学校（154 名、43%）であった。本研究に参加した特別支援学校教員は、小学校教員に比して自己評価による ABA 自己認知度が有意に高かった（ $p < 0.001$ 、 χ^2 検定）。この結果は、Mitachi ら(2016)による報告と同じ傾向であった。そして、ABA 自己認知度低群（自己評価 1、2）、中程度群（同 3、4）、高群（同 5～7）の 3 群に分けると、ABA ビデオ視聴前後の理解度チェック得点差（後－前）の

平均は、低群 2.37 点（ $N=272$ ）、中程度群 1.18 点（ $N=55$ ）、高群 0.73 点（ $N=30$ ）と、いずれも視聴「後」に得点が高く（各群内で有意差があったのは、低群、中程度群、いずれも $p < 0.001$ 、対応のある t 検定）、低群が他の 2 群に対して有意に前後得点差が大きかった（ $p < 0.001$ 、分散分析）。

特別支援学校教員と小学校教員の比較では、事前の ABA 理解度チェック得点は特別支援学校教員で有意に高かった（ $p < 0.001$ 、 χ^2 検定）、事後の得点では、両者に有意差を認めなかった。

③対照群との比較： 2 校の特別支援学校での比較では、事前の理解度チェック得点は、対照群で有意に高かったが（ $p < 0.001$ 、分散分析）、事後の理解度チェック得点は ABA ビデオ視聴群で有意に高かった（ $p < 0.001$ 、分散分析）。

（考察）①ABA ビデオ視聴の効果： ABA ビデオ視聴 358 名の解析から、ABA 理解度チェック得点が事前から事後にかけて有意に上昇していることが明らかになった。これは、今回新規に開発した ABA 理解啓発ビデオの視聴が、ABA の理解促進に一定の効果をもたらしていると考えられる。

②本ビデオの効果が及ぶ対象者： さらに、対象者の自己評価による「ABA 認知度」を元にした解析から、今回開発した ABA ビデオは、特に「ABA 低認知群（「ABA は全く知らない」、及び「ABA という言葉は聞いたことがある」と評定した群）」に効果がみられ、すでに ABA をある程度実践レベルで使っているという高認知群では低認知群ほどの効果がないことが明らかとなった。この結果より、本ビデオの対象は研究当初の目的である「ABA 初学者の理解啓発を促進」する内容であるということが示唆された。

③対照群との比較： 対照群に比して ABA ビデオ視聴群で事後の ABA 理解度チェック得点が高かったことから、本ビデオの効果が示された。この対照群への参加者は統制条件に協力可能な教員であったため、対照群には ABA ビデオ視聴群よりも ABA に興味関心が高い者が多かった可能性が示唆された。これを踏まえると本ビデオの視聴による ABA の理解啓発の効果がより示されるものと考えられる。

（文献）・馬場ら(2013) 通常学級における機能的アセスメントと支援の現状と今後の課題、行動分析学研究 28, 26-42.

・三田地ら（2015）通常学級における困った事例に対する教師の実態調査、日本特殊教育学会第 53 回大会、東北大学.

・Mitachi, M. et al. (2016) The Effectiveness of Video Clip Developed for Introducing Basic Knowledge of ABA to School Teachers, Thailand National Conference on Psychology, Bangkok, Thailand.

・Sailor, W., Dunlap, G., Sugai, G., & Horner, R. (2011). Handbook of Positive Behavior Support, Springer.

（謝辞） 慶應義塾大学坂上貴之先生、本研究にご協力頂きました教職員他の皆様に心よりお礼申し上げます。なお、本研究は文部科学省科学研究補助金基盤研究 C（2014～2017 年度、研究課題番号：26381332）の一部として実施された。（MITACHI Mami, OKAMURA Shoji, HARAGUCHI Ichiro, ENDO Yuichi, and SATO Tomohiko）

※本研究で開発した「ABA 理解啓発ビデオ」DVD をご入用の方は、m_mitachi@seisa.ac.jp までご連絡下さい。